



神谷直子 議員

### 安心安全が実感できる地域づくりについて

**問** 今年度の防災活動の取り組みは？

**答** 防災リーダーを育成する取り組みとして、防災リーダー養成講座を開催しています。

**問** 子ども達への防災教育の取り組みは？

**答** 「子ども防災リーダー養成講座」及び「防災・減災アカデミー」の子ども達が作成した防災カルタを利用したいです。また、従来から5・6年生を中心に防災教育に取り組んでいます。

**問** 各町内会やまちづくり協議会への支援は？

**答** 安否確認や救護活動等で必要となる資機材を全町内会に配布しています。また、防災資機材購入表を作成して、見える化を図っています。

**問** 耐震診断や耐震改修に対する今年度の取り組みは？

**答** 無料耐震診断は91件ありました。補助金として、前年度所得税非課税の世帯に工事費・設

計費込みで165万円を上限に交付しています。

**問** 今年度の防犯活動の取り組みは？

**答** 青色防犯パトロールや、警備会社による深夜パトロールを実施しています。また、防犯カメラの設置も取り組んでいます。

**問** 和歌山市や長久手市など、個人で規定のバンドナを利用している、防犯活動のすそ野を広げる活動をしているところもあります。高浜市では、そのような取り組みをしないのですか？

**答** 日常の中で個人が気軽に取り組める防犯活動は実施していない。まちづくり協議会への情報提供をしながら、地域で検討を考えます。

### 消防団について

**問** 消防団員は現在何人ですか？

**答** 現在86人です。市職員も多数含まれていますが、団員確保に苦慮しています。

**問** 女性の活躍も含め、団員確保の取り組みとして若い世代、「防災・減災アカデミー」の子ども達に消防団に興味を持たせては？

**答** 将来の入団を見据え、子ども達への取り組みとして、「消防団カチカチ隊」を結成しています。



杉浦康憲 議員

### 住民投票の振り返りと公共施設あり方計画の今後の進め方について

**問** 市政に係る重要事項について市政へ直接参加する機会が「住民投票」という制度で、これにより示された「総意」を市政に反映するのか。

**答** 住民投票制度は、二代表制のもとで議会制民主主義を補完するものです。一定の投票率に達しない場合は、開票しても「総意」を汲み取れないおそれがあり、投票資格者の半数の意思表示がなければ、市民の「総意」として、その結果を捉えることができないことから、投票率50%以上が成立要件とされています。

**問** 「中央公民館取り壊し」の賛否については、いくつかの選択肢が考えられ、二者択一での判断では難しかったのではないかと。

**答** 短期の視点ではなく、限られた財源の中で、市民サービス全体、市の将来と公共施設全体を考えての総合的な判断であり、中央公民館の取

り壊しの賛否を問うという二者択一での判断をすることの難しさが、一つあったのではないかと考えています。

**問** 現在進めている計画をいかに説明し、情報を届けるのかを考え、私たち市政クラブでは、アシタの高浜を創る会さんと共に、5回のピラを全戸ポスティング、駅や街頭での手配りを実施しました。今後、情報提供する上での工夫などがありませんでしたらお聞きしたい。

**答** 行政から提供されるグラフや表、資料に書かれている内容は難しく、ポイントを絞って情報をお伝えしていく方法もあるのではないかと考えています。

**問** 今だからこそ、公共施設のあり方について今一度、市民の皆さんに説明する良い機会では。

**答** 投票公報や討論会のネット配信など、投票判断に必要な情報提供を発信しました。改めて、これまで市が議論してきた「公共施設のあり方」の検討の歩みを振り返るとともに、市が目指す公共施設の姿を、広報たかはまの特別号として発行し、市民に説明していきたいと思えます。この特別号については、早くも2月、遅くとも3月には発行したいと考えています。